



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimurai950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

◎石叫 ■ 「米国が感動した日本人気質」
 今年四月29日の『羅府新報』の「磁針」にあった記事だ。そのタイトルが、今回の表題である。日本人の善意がアメリカをはじめ世界に広がることを願う。「あ、しまった！」と思った時には時すでに遅し。先日友人がスマートフォンをなくした。飲食店の洗面所で手を洗った際、洗面所に置き忘れ、慌てて戻ったが、すでになかった。犯人を特定することはできず。諦めるしかなかった。しかし最後に奇跡は起こる。サンルイスオビスポに旅行に行った際、友人が財布をなくした。場所はワインバー。「絶対に見つけた人が持っていてしまっている」と誰しもがそう思った。しかし翌朝、窓から店をのぞくとカウンターの前に財布がちょこんと置いてあるではないか。中身を確認すると、現金もカード、身分証明書に至るまで何ひとつ盗まれていなかった。みな顔を見合わせ「奇跡だ」とつぶやいたのは言うまでもない。忘れ物を持ち去ることはせず、持ち主に届けるというのが日本人の常識だが、米国では奇跡になってしまう。
 その日本人気質が招いた出来事が、昨年、全米中を感動させた。オクラホマ州で農業を営むケビン・ホイットニーさんは二〇一三年十月、作業中にスマートフォンをなくしてしまった。しかし、八ヶ月後、スマートフォンが彼の元に返ってきたのだ。送り主はなんと日本在住の日本人からだった。実はスマートフォンは作業中に輸出入の穀物の中に紛れ込み、輸送トラックでアメリカ大陸を横断し、貨物船で太平洋をわたって茨城県鹿嶋市にたどり着いた。その後、製粉所の従業員が約5万8000トンの大量の穀物の中からスマートフォンを見つけ、持ち主のホイットニーさんに送り届けたのだ。スマートフォンには娘の写真も保存されており、ホイットニーさんの喜びは頂点に。「見つけた人が米国まで送り返してくれるなんて信じられない」。日本人の気質から起こったスマートフォンの旅は地球を半周し、感動とともに全米で伝えられた。
 モーセは十戒の八番目で「あなたは盗んではならない」(出エジプト二〇:15)とイスラエルの民に命じた。でも、この戒めはモーセの時代の人々や、現代のアメリカ人に対しての戒めであり、日本人には関係ないと思うだろうか。誰もそうは思わないであろう。文化的・歴史的背景の違いはあっても、人の罪は時代や場所に関係ないからだ。例えば他の、姦淫するな、偽るな、むさぼるなという戒めに対して、大丈夫といえる人は一人もいない。だからいつ罪を犯すかも知れない己を知って、お互い尚も神のみ前に謙虚でありたいものだ。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」
 オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。
 私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

